

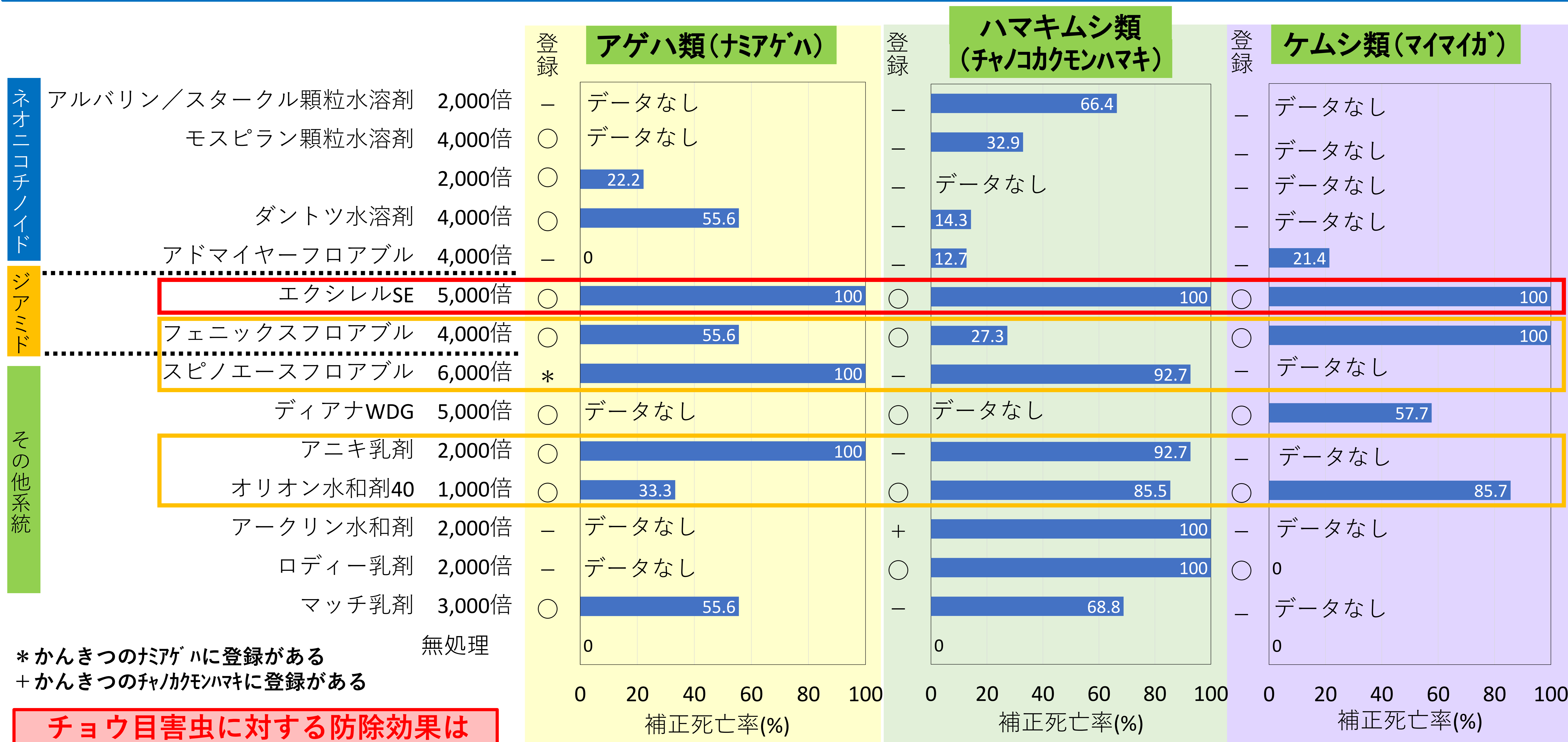
育苗期の害虫に対する各種薬剤の防除効果2

3. その他チョウ目害虫

新梢を激しく加害する比較的大型のチョウ目害虫に対する防除効果を検討した。

ネオニコチノイド系薬剤は、薬剤の種類によって防除効果にバラつきがあり、十分な効果は得られなかった。

ジアミド系薬剤のエクシレルSEは、いずれの害虫に対しても高い防除効果が得られたほか、フェニックスフロアブル、スピノエースフロアブル、アニキ乳剤、オリオン水和剤40の効果が高かった。



* かんきつのナミアゲハに登録がある
+ かんきつのチャノカクモンハマキに登録がある

チョウ目害虫に対する防除効果はジアミド系薬剤が高かった。アブラムシ類に効果が高い薬剤と併用することで育苗期の防除に活用できる。

室内試験：若～老齢幼虫を各種薬剤に浸漬し、25℃・16L8Dの室内で管理。処理3日後に生死判定。

室内試験：中～老齢幼虫を各種薬剤に浸漬し、25℃・16L8Dの室内で管理。処理6日後に生死判定。

露地試験：柿(富有)を供試樹とし、6月2日に薬剤散布、7日後に老齢幼虫を放飼、2日後に生死判定。試験期間中の降雨：86.5mm